

高浜町鳥獣被害対策総合計画

平成28年3月

高 浜 町

目 次

1	これまでの経緯.....	2
1.1	鳥獣被害の現状.....	2
1.2	これまでに講じられた被害対策.....	4
2	高浜町鳥獣被害調査.....	6
2.1	調査の目的と方法.....	6
2.2	調査の結果.....	7
3	高浜町鳥獣被害総合対策計画.....	14
3.1	高浜町の鳥獣被害対策方針.....	14
3.2	高浜町における鳥獣被害への対策計画.....	17
4	高浜町鳥獣被害対策の実施計画.....	26
4.1	高浜町内地区ごとの被害対策実施計画.....	26
4.2	被害対策実施にあたっての役割分担.....	31
4.3	被害対策の進行管理.....	32

はじめに

高浜町においては、従来よりサル、イノシシ、シカをはじめとする野生鳥獣による様々な被害に悩まされています。

これらの被害への対策として、おもに農業従事者、捕獲従事者、高浜町役場とが連携し、電気柵やネット柵の設置をはじめとする防御対策や有害捕獲にも取り組んでまいりました。しかし、未だ、根本的な解決には至っていない状況です。また、鳥獣被害は、農業被害にとどまらず、林業被害はもとより、庭先や民家の中にまで入り込んで被害を及ぼす状況に至っており、町全体での取組が必要となっております。

そこで、高浜町では、鳥獣被害対策に町民一丸となって取り組むための実効性の高い総合的な計画を策定し、実施に移すことを予定しております。そのため、農業団体、林業団体、捕獲従事者、行政等から構成される高浜町鳥獣被害対策総合計画策定協議会を構成し、計画立案を進めることといたしました。

1 これまでの経緯

1.1 鳥獣被害の現状

(1) 農林業被害

高浜町における野生鳥獣による農業被害としては、おもに、イノシシ、シカ、サルによる被害が多く報告されています。高浜町における平成26年の農作物被害額は、7,680千円に達しており、福井県内における一市町での被害額としては大きくなっています。被害額の内訳をみると、イノシシによる被害は6,937千円、シカは142千円、サルは598千円と、イノシシによる被害が最も多く、次いでサルの被害が多い状況です。

高浜町における野生鳥獣による林業被害としては、クマ、シカによる被害が報告されています。特に、シカによる林業被害としては、枝葉の食害や、剥皮被害が増えている状況にあります。



農業被害の様子



林業被害の様子

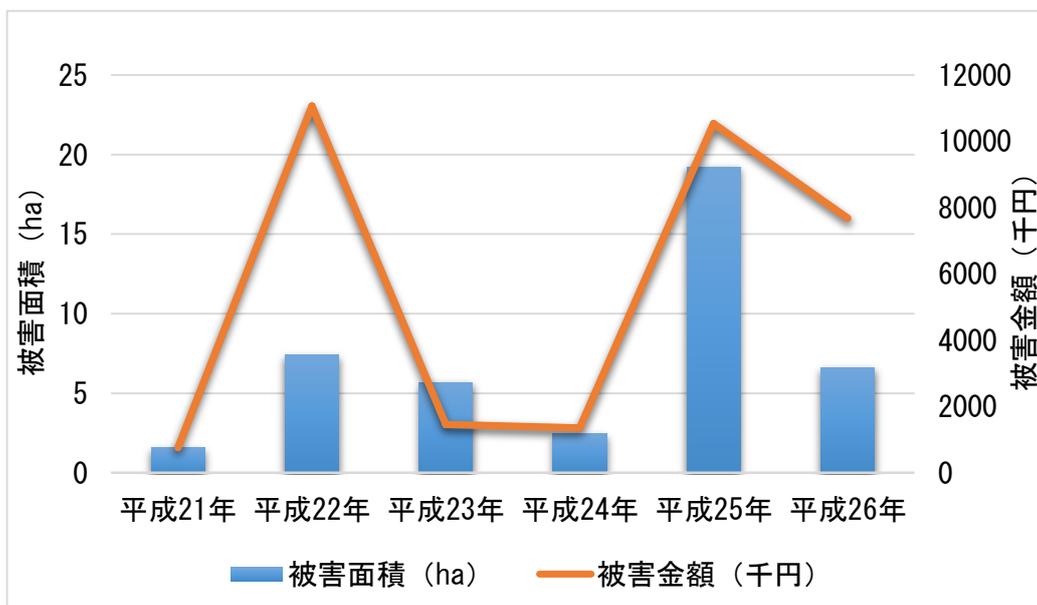


図 農作物被害面積と被害金額の推移

(2) 生活環境被害

鳥獣被害は、農業や林業にとどまらず、生活環境への被害にも及んでいます。イノシシは、山際集落において、餌を求めて庭先に入ったり、さらには物置を破壊することもあります。サルも、家屋に侵入することがしばしばです。また、山中で増えたシカは、道路に飛び出して交通事故を引き起こすこともあります。あるいは、ハクビシンやアライグマなどの中獣類は、家屋天井裏に潜み、糞尿をするなど家屋の衛生を損なったり、神社仏閣を破壊することもしばしばです。

このように、野生鳥獣による被害は、農林水産業にとどまらず、また、山際集落だけでなく人家が密集した地区にも及ぶこともしばしばあり、私たち人間の生活環境にも広く影響を及ぼす状況に至っています。



傷つけられた神社仏閣の柱

1.2 これまでに講じられた被害対策

(1) 被害対策の仕組み

高浜町では、町の上位計画である「高浜町総合計画」（平成23年、高浜町）において、鳥獣被害対策の推進を位置づけており、基本計画の目標として掲げられている「地産産物が元気で、生きがいを持って働けるまちづくり」のために鳥獣被害（有害魚介類を含む）を許容できる範囲に早急に低減させることを施策方針として掲げています。さらに、「高浜町総合計画・前期実施計画（平成24～平成27年度）」（平成24年、高浜町）においては、「鳥獣害のない里づくり事業」を推進することが明記されています。こうしたことから、これまでに地元住民、高浜町役場が連携して、防御柵の設置、有害鳥獣の駆除・追い払い、嶺南地域有害鳥獣処理施設の運用に取り組んできました。

また、具体的な鳥獣被害対策を推進するため、嶺南6市町と連携して「嶺南地域鳥獣被害防止計画」（平成24年、嶺南地域有害鳥獣対策協議会）を策定し、防御柵の設置、有害鳥獣の捕獲を推進してきました。なお、有害鳥獣の捕獲に関しては、「高浜町鳥獣被害対策実施隊規則」（平成24年規則第4号）を策定し、高浜町と猟友会会員とが連携した有害鳥獣の捕獲体制を整え捕獲に取り組んできております。

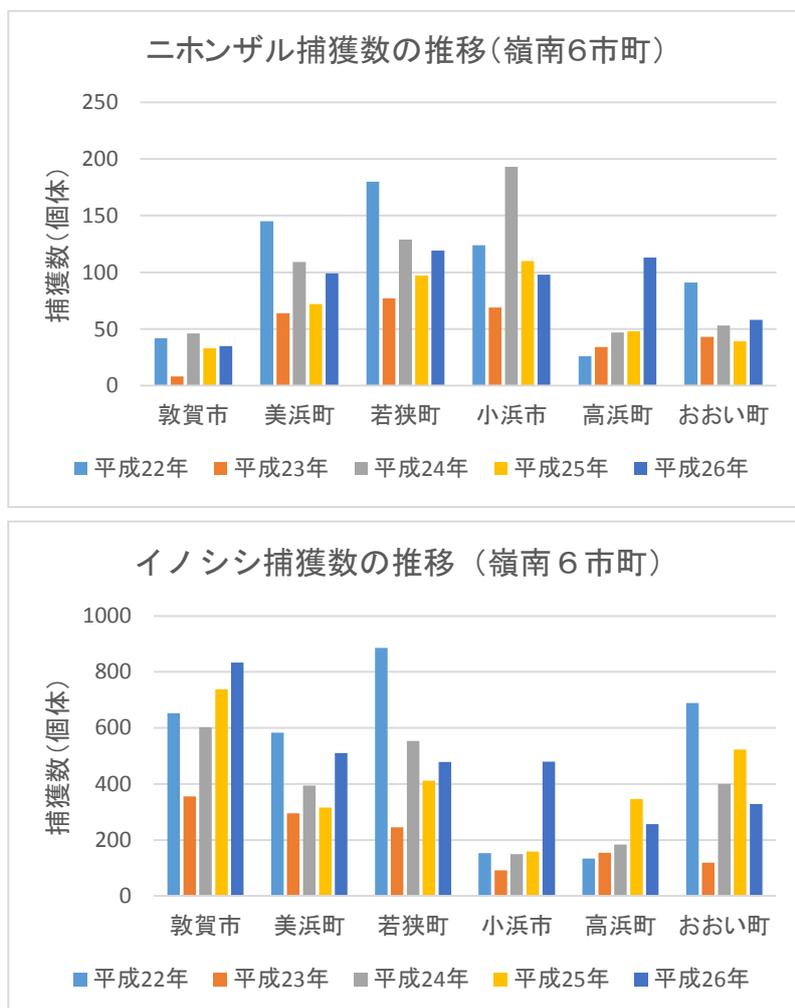


図 有害鳥獣の捕獲数の推移

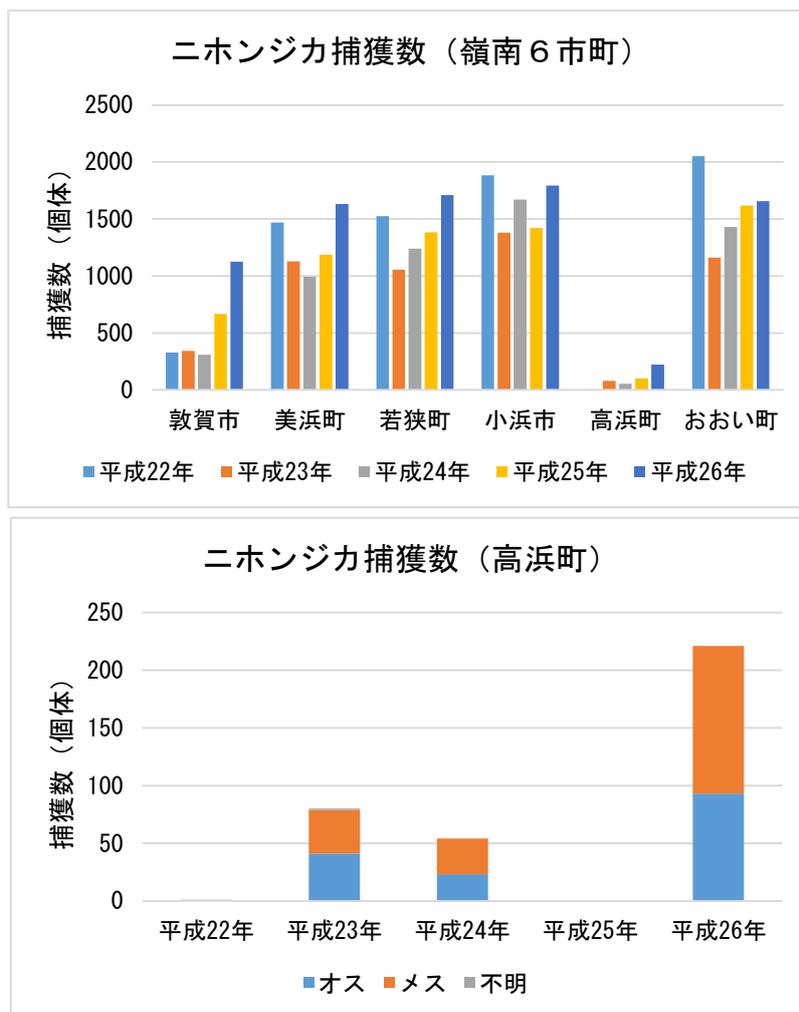


図 有害鳥獣の捕獲数の推移

(2) 被害対策の実施

鳥獣被害対策は、農家や住民自らが主体的に取り組むことで、効果を発揮します。そこで、町内では電気柵の設置やサルの追い払い等の鳥獣被害対策に関する研修会も重ねてきました。その結果、一部の地域では、地域住民によるサル追い払いの主体的な取組もみられるようになってきました。

2 高浜町鳥獣被害調査

2.1 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

本調査は、高浜町の全集落（60 集落）を対象として、集落、農地、里山における鳥獣被害を調査・分析し、高浜町における鳥獣被害の総合対策計画作成の基礎資料を整備することを目的として実施しました。

(2) 調査の方法

高浜町における鳥獣被害調査は、聞き取り調査と現地調査を実施しました。調査の内容は、下表のとおりです。調査は、平成 27 年 10～12 月に実施しました。

高浜町鳥獣被害調査の内容（平成 27 年度実施）

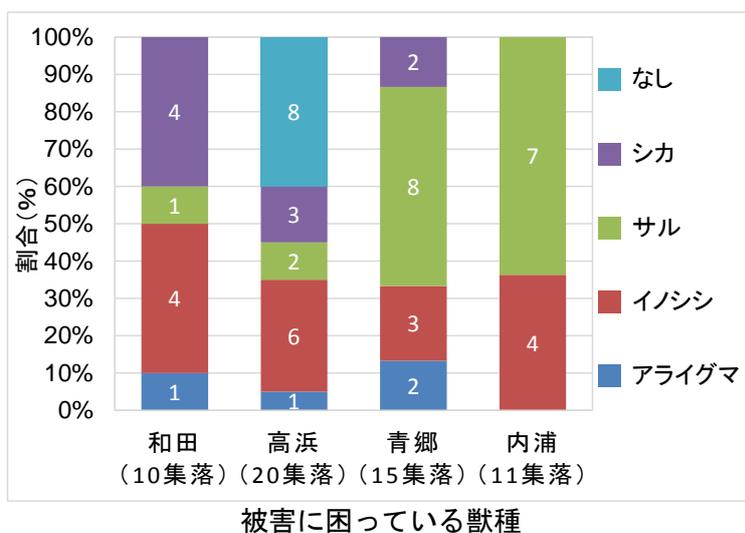
調査項目		調査の内容	
		方法	調査場所等
聞き取り調査		町内の各集落の農家組合長等を直接訪問し、鳥獣被害の被害状況と対策状況について、「地元の考え（地域ニーズ）」を把握する。	町内全集落 (60 集落)
集落鳥獣被害調査 ※現地調査	鳥獣被害及び被害対策状況調査	調査員が集落内を踏査し、次の事項について地図上にプロットし、画像撮影する。 [現地記録情報] ● 野生獣のフィールドサイン（食痕、足跡、糞等） ● 民家周辺、農作物、森林等への被害状況 ● 柵・檻の設置状況（種類と規模等）	町内全集落 (60 集落)
	センサーカメラ調査	農地・集落への侵入痕跡や森林被害がある場所などを対象にセンサーカメラを設置し、鳥獣被害を及ぼす動物を画像撮影する。	町内全集落 (60 集落)
里山鳥獣被害調査 ※現地調査	糞塊密度調査	シカが排泄した糞のひとまとまりをサイズごと（糞粒数を 10 粒未満と 10 粒以上に分ける）に区分し、確認位置を記録する。	町内山城 (5 ルート)
調査データのとりまとめ	聞き取り調査のまとめ・解析	聞き取り調査の結果を一覧表・図等にまとめる。	—
	鳥獣被害集落マップ	集落ごとに、被害状況、侵入経路、柵・檻の設置状況を地図化する。また、鳥獣被害及び被害対策状況調査の結果を一覧表・図等にまとめる。	
	鳥獣被害カルテ	集落ごとの鳥獣被害の発生状況と被害対策状況の結果を分析し、問題点等を抽出する。	
	里山鳥獣被害分析	里山における鳥獣被害の発生状況と被害対策状況の結果を分析し、問題点等を抽出する。	

2.2 調査の結果

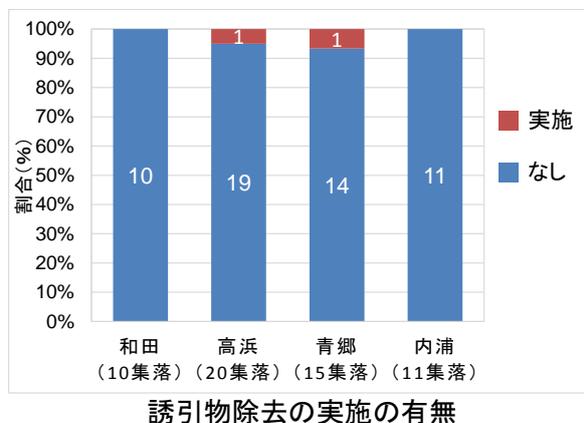
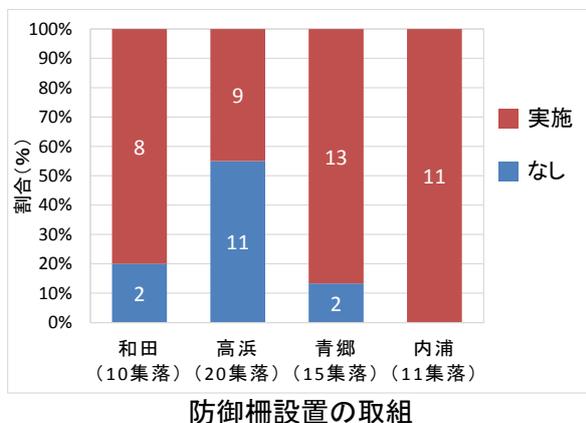
(1) 聞き取り調査の結果

1) 鳥獣被害への対策

高浜町内の農家組合を中心に聞き取り調査を実施したところ、高浜町内4地区において、それぞれ「困っている獣種」には偏りがあるようです。地区ごとにみると、和田地区ではイノシシとシカに困っている集落の割合が同程度に高く、青郷地区と内浦地区では、イノシシ・シカに加えてサルによる被害に困っているとする集落の割合が高い結果となりました。一方、高浜地区では鳥獣被害に「困っていない」集落の割合が高い結果となりました。

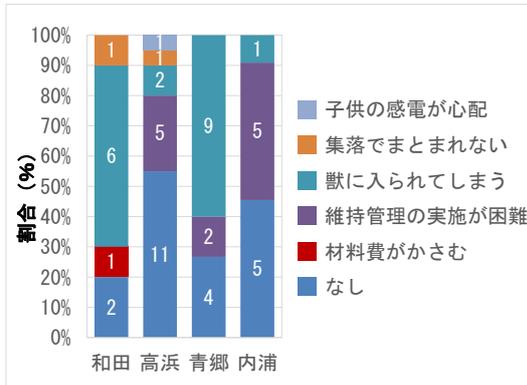


また、鳥獣被害への対策の実施について、集落としての防御柵の設置や誘引物除去などの取組状況の聞き取りでは、和田、青郷、内浦地区では大半かすべての集落で防御柵の実施に取り組んでいることがわかりました。一方、イノシシ・シカ・サルなどを集落に寄せ付けないための誘引物除去については、高浜町内のほとんどの集落で実施していないようです。

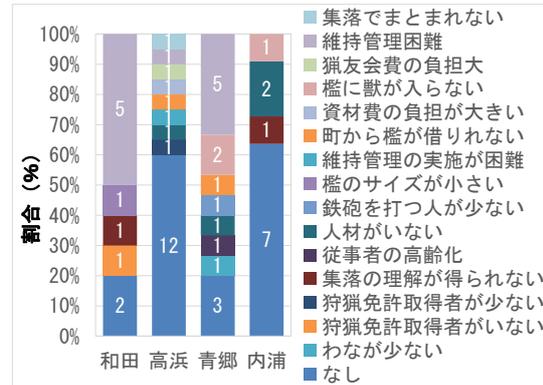


2) 鳥獣被害対策への要望

聞き取り調査では、防御柵の設置や有害駆除の実施状況も聞き取りました。防御柵の実施については、獣に入られてしまい困っているという声や、防御柵の維持管理の実施が困難というが多く聞かれました。また、有害駆除の実施については、維持管理をする人手がないために、十分な檻の設置ができないといった声が多い状況でした。



防御柵設置に関する声



有害駆除に関する声

聞き取り調査では、鳥獣被害に対する行政への要望についても聞き取りました。多様な意見もありましたが、主な要望として、被害を及ぼす獣の個体数を減らすことや、集落人口が少なく対策に手が回らないことによる切実な声が多数ありました。

【鳥獣被害対策への主要な要望】

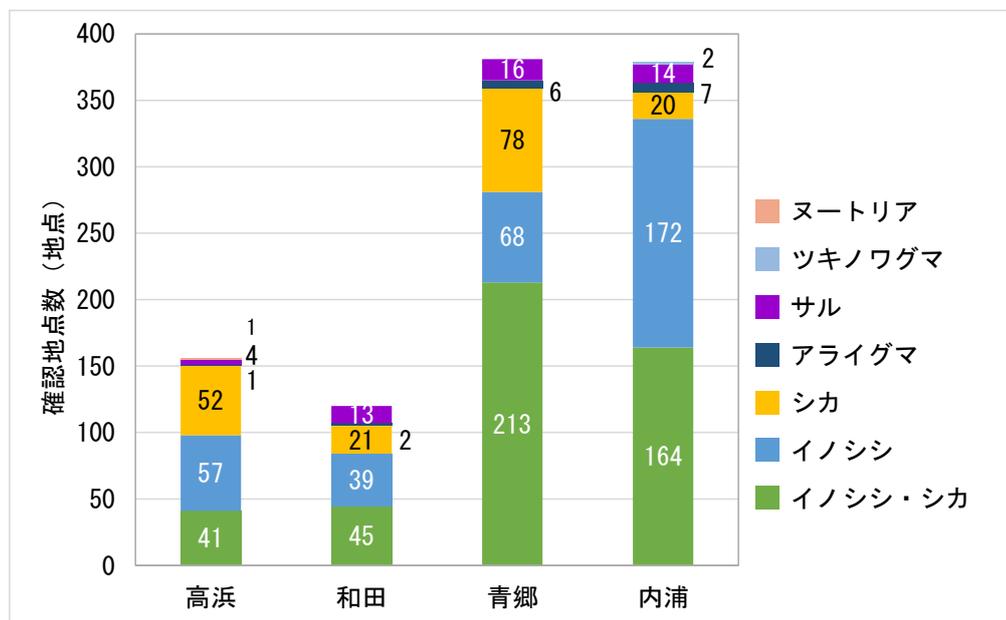
- いくら対策しても被害が収まらないことから、被害を及ぼす獣の個体数を減らすしかない。
- 町全体で山際を金網柵で囲ってほしい。
- 規模の小さい集落からは、集落単位での対策は限界があるため、町全体で鳥獣被害対策を進めてほしい。
- 耕作放棄地の刈り払いを実施したいが、他人の土地は刈れないので、行政にコーディネートしてほしい。

(2) 現地調査の結果

1) 鳥獣被害の現状

高浜町全域で実施した鳥獣被害調査の結果、イノシシ、シカ、サルの出没が全町的に多いことを確認しました。足あとやフンなどの獣の痕跡を記録するフィールドサイン調査では、シカ、イノシシのフィールドサインを多く確認しました。また、イノシシとシカについては、フィールドサイン以外にもセンサーカメラ調査や現地調査でも確認できており、住宅密集地が多い和田地区で数は少なくなるものの、他の地区では山際に限らず民家近くまで相当な数が存在することがうかがえました。

調査の際には、稲刈り後の二番穂や放置されたカキの木にサルが集まっている様子も確認しており、集落側において鳥獣を引き寄せている要因があることもうかがえました。



フィールドサインの確認状況



イノシシによる掘り返し跡



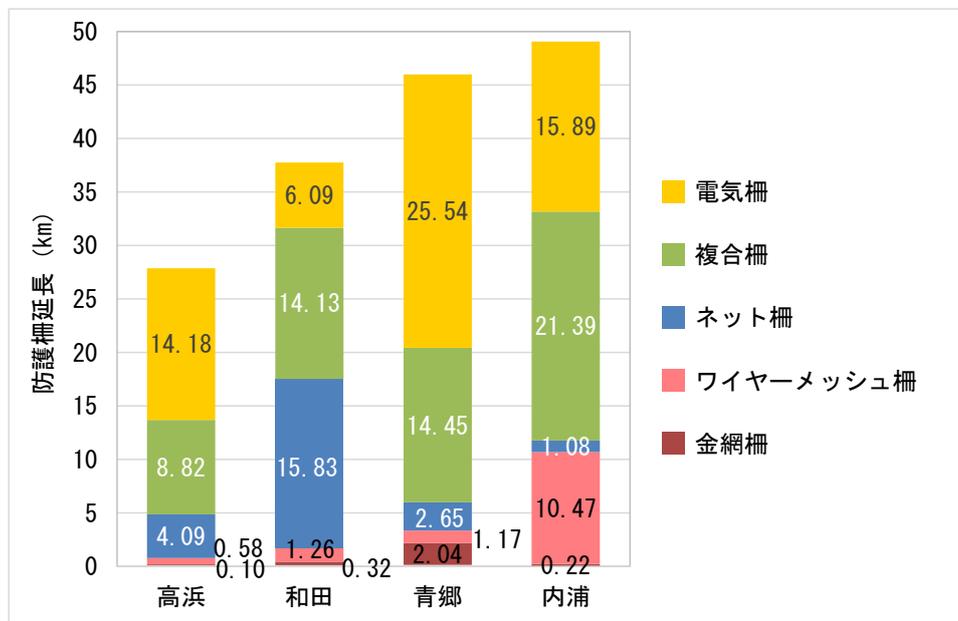
センサーカメラで撮影されたシカ

2) 対策の現状

① 防御柵による対策の実施状況

現地調査では、聞き取り調査とは別に、実際の対策状況を把握するため、集落での鳥獣被害対策の実施状況を記録しました。調査では、金網柵、電気柵をはじめ、鳥獣被害対策として実施されている内容を地図上に記録しました。

下のグラフは、鳥獣被害対策として最も基本的な防御柵について、その延長を地区ごとにまとめたものです。高浜町内で防御柵の延長が最も長いのは、内浦地区で、次いで青郷地区となりました。防御柵の種類としては、青郷地区及び高浜地区は、電気柵の延長が最も長く、次いで複合柵（イノシシ・シカ用のワイヤーメッシュとサル用の電気柵の組み合わせ）の延長が長い結果となりました。内浦地区では、複合柵の延長の方が長く、聞き取り調査において「サルに困っている」ことが裏付けられる結果を示しています。



地区別にみた防御柵の延長



イノシシ対策用電気柵



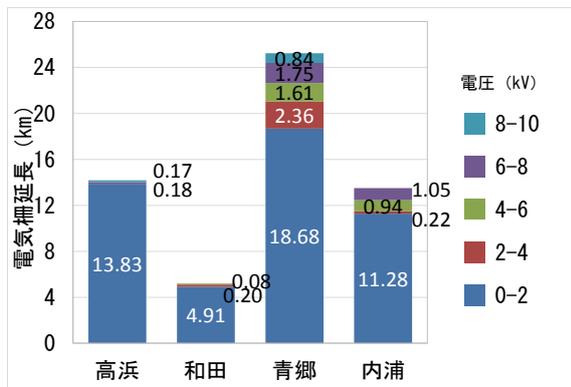
イノシシ・シカ・サル用の複合柵

② 鳥獣被害－対策の効果検証

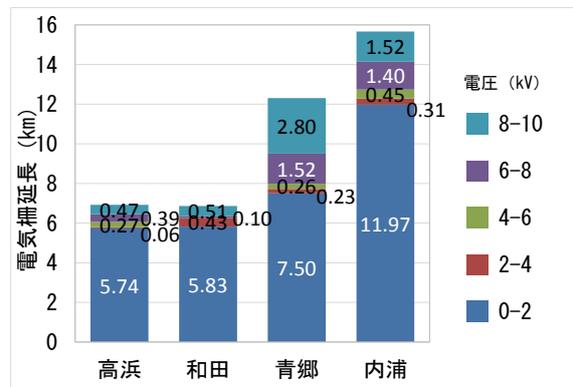
和田地区を除く3地区では、いずれにおいても防御柵で懸命に取り組まれている様子が見えます。現地調査では、設置された防御柵が有効であるかどうかを調べました。現地調査の際、イノシシ・シカ用の電気柵とイノシシ・シカに加えてサルへの対策として設置されている複合柵について、電気柵が有効に設置・管理されているかを通電試験により判定しました。その結果、イノシシ・シカ用電気柵、複合電気柵とも、獣に対する有効な電圧を満たしている柵はほとんどないか、大半が有効な電圧を満たしていない状況であることが判明しました。

この調査は、イネの収穫時期を終えた11月に調査を実施していますが、電気柵は作物を作っていない時期も通電することで効果が得られるものであるため、通電していない状況は鳥獣被害対策としてはよくない状況です。また、複合柵が設置されている場所では、柵の中に果実や冬野菜などの作物がある状況であるにも関わらず、通電の効果がない状況でした。また、ワイヤーメッシュ柵の調査では、めくれがあったり結束が十分でないなど、こちらも有効な防御柵となっていない状況が判明しました。

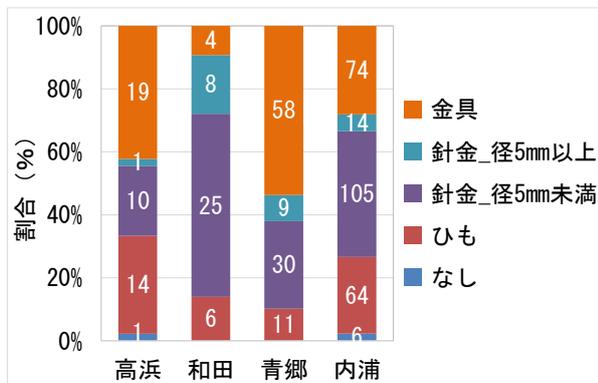
これらのことから、高浜町内に設置されている防御柵は、かなり高い割合で効果が発揮できていない結果となりました。



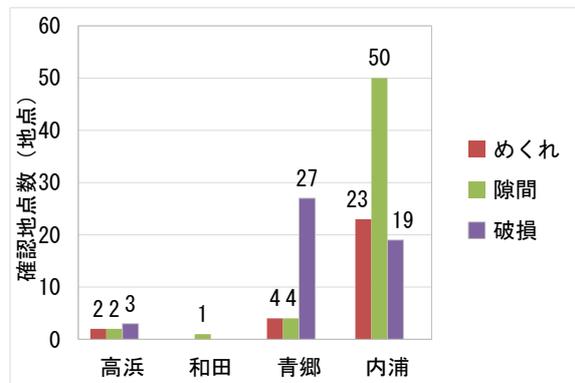
イノシシ・シカ用電気柵の電圧調査結果



複合電気柵の電圧調査結果



ワイヤーメッシュ柵の結束方法調査結果

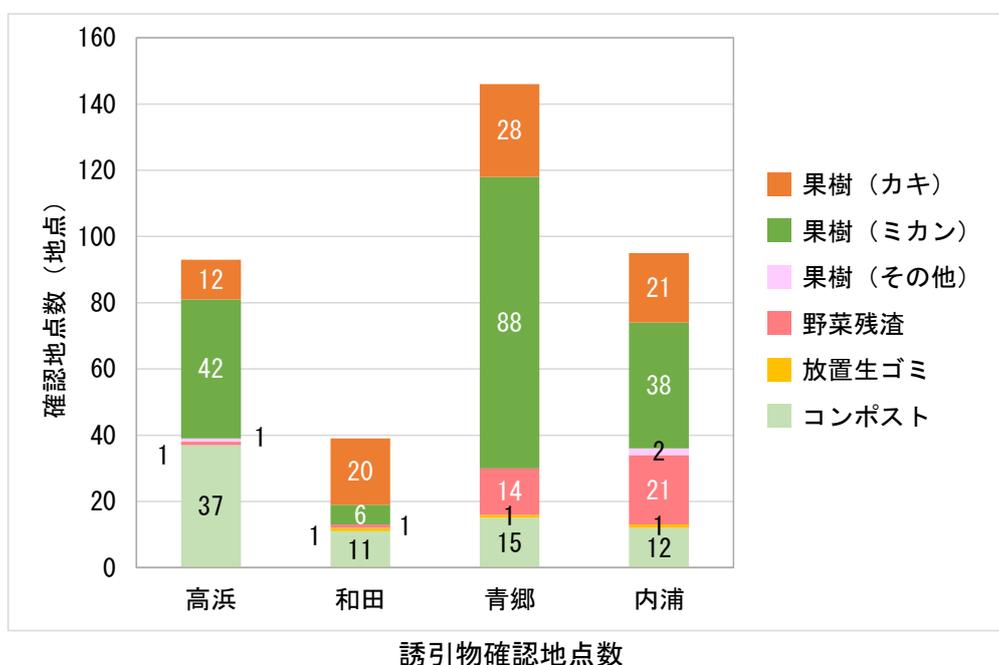


ワイヤーメッシュ柵の隙間の調査結果

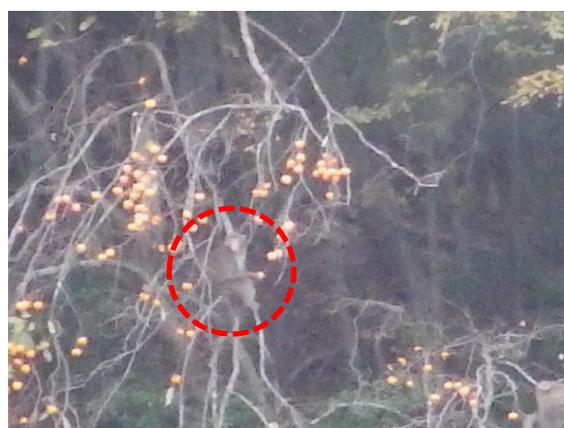
③ 集落への誘引物の存在

現地調査では、果樹や野菜残渣など、イノシシ・シカ・サルの集落への誘引物の存在の有無も記録しました。その結果、和田地区では誘引物が少なかったものの、他の地区においては、多数の誘引物の存在を確認しました。その数は青郷地区が最も多く、次いで内浦地区、高浜地区の結果となりました。誘引物として最も多いのはミカンであり、カキ、コンポストが多くみられました。青郷地区、内浦地区では、田畑への野菜残渣の廃棄も多くみられました。

現地調査では、放置されたカキの木にサルが集まっている様子も確認しています。調査結果から、これらの果樹や野菜残渣等が、イノシシ・シカ・サルを集落にひきよせている様子がうかがえました。



水田の二番穂に引き寄せられたサルの群れ
(和田地区)



放置されたカキの実を食べるサル
(和田地区)

(3) 高浜町における鳥獣被害対策の問題と課題

1) 問題点

高浜町では、前章でとりまとめたとおり、町の方針の位置づけや施策展開など、鳥獣被害への対策を講じてきました。しかし、依然として被害は収まらず、鳥獣被害を許容できるか無視しうる程度には至っていません。集落での聞き取り調査では、防御柵の設置、有害駆除を実施しているものの、被害を防ぎきれていないため、獣を駆除して個体数を減らすしかないという声や、山際を金網柵で囲うしかないという声が多く聞かれました。

一方で、現地にて鳥獣被害対策状況を調査したところ、設置した防御柵について、その効果が十分に発揮されていないものが見受けられました。また、効果的に設置されていない檻や、獣を集落へおびき寄せる放置果樹、二番穂等の誘引物が多く見受けられました。規模の小さい集落からは、「集落単位での対策は限界があるため、町全体で鳥獣被害対策を進めてほしい。」といった悲痛な声が出始めていることも無視できません。

2) 課題

■現在実施しているの鳥獣被害対策の効果的な実施

- ・ 既設の防御柵、捕獲檻の確実な効果発揮
- ・ 獣が出没しにくい集落づくり

(例：果樹、野菜クズ、二番穂、放棄水田を無くす。追い払いを辛抱強く継続)

- ・ 人手のない集落でも十分な対策ができるよう、広域で人手を均等に配置する仕組みづくり

■より高度な鳥獣被害対策実施の検討

- ・ より効果の高い防御柵設置の検討
- ・ 有害駆除の規模拡大の検討



町内各地で見られる放置されたカキの木
*イノシシ、サルの誘引となる



依然としてみられる農地での野菜くず
*イノシシ、シカ、サルの誘引となる

3 高浜町鳥獣被害総合対策計画

3.1 高浜町の鳥獣被害対策方針

(1) 基本方針と基本施策

高浜町における鳥獣被害の対策については、町の総合計画でも明確に位置づけられており、高浜町が目指す「いきいきと働くことができる高浜町」を実現するうえで、鳥獣被害を低減することが町の重要な施策の一つとなっています。

高浜町では、これまでも町民や関係機関と連携した鳥獣被害対策を講じてきていますが、前項までに整理した通り、これまでの鳥獣被害対策には問題点・課題点も多いのが現状です。そこで、これまでの成果と課題から、新たに、鳥獣被害に対する基本方針を策定することとします。

○高浜町総合計画

分野別目標 2-1 地場産業が元気で、生きがいを持って働けるまち

施策方針 鳥獣害・水産害を低減する

- 檻による捕獲と追い払いにより、鳥獣害（有害魚介類被害を含む）を許容できる範囲まで低減します。
- 将来的に、一定の共存を前提としながら、鳥獣害を無視しうる程度まで低減する仕組みを構築します。



○ 高浜町総合計画・前期実施計画（平成 24 年度～平成 27 年度）

鳥獣害のない里づくり事業

- 獣害防止柵の設置
- 有害鳥獣の駆除・追い払い
- 嶺南地域有害鳥獣処理施設の運用



◎ 高浜町鳥獣被害対策総合計画

[基本方針]

町民 - 行政 が連携し、みんなで取り組む鳥獣被害対策

農業者・林業者にとどまらず、行政や関係機関とも連携し、町民みんなで自発的・継続的・効果的に、鳥獣被害対策に取り組み被害を低減させます。

[基本施策]

基本施策 1. 効率的かつ効果的な鳥獣被害対策の取組の推進

- 獣種ごとの特徴にあわせた鳥獣被害対策の実施
- 地区ごとの獣害・社会事情に応じた鳥獣被害対策の実施

基本施策 2. バランスの取れた防御・環境整備・捕獲の推進

- 防御・環境整備・捕獲等の対策の実施モニタリングの実施
- 鳥獣被害対策へのフィードバックシステムの確立
- 計画的な有害鳥獣の捕獲の推進

基本施策 3. 町民みんなで継続的に鳥獣被害対策に取り組む体制の確立

- 町民一人ひとりが取り組む環境整備の促進（放置果樹・野菜くず除去）
- 正確な鳥獣被害対策の情報の共有・伝達
- 広域的な対策体制の整備

(2) 鳥獣被害への取組の目標

ここでは、前項の基本施策を実現するための方法を検討し、高浜町における鳥獣被害への取組の目標を定めます。

● 基本施策 1. 効率的かつ効果的な鳥獣被害対策の取組の推進

取組目標	具体的な施策
獣種ごとの特徴にあわせた鳥獣被害対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防御柵の設置推進 ・ 集落での誘引物除去 ・ 有害捕獲の強化
地区ごとの獣害・社会事情に応じた鳥獣被害対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区ごとの防御対策計画の立案 ・ 防御柵設置・誘引物除去・有害捕獲の強化推進 ・ ICTを用いた有害捕獲 ・ テレメトリー調査と連動した有害捕獲

● 基本施策 2. バランスの取れた防御・環境整備・捕獲の推進

取組目標	具体的な施策
防御・環境整備・捕獲等の対策の実施モニタリングの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣被害調査（被害の現況把握） ・ 被害対策調査（対策の効果・課題把握）
鳥獣被害対策へのフィードバックシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落出前講座 ・ 被害対策広報
計画的な有害鳥獣の捕獲の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捕獲技術講習会 ・ 捕獲の担い手研修会（持続可能な体制を考える） ・ 野生鳥獣の生息状況調査

● 基本施策 3. 町民みんなで継続的に鳥獣被害対策に取り組む体制の確立

取組目標	具体的な施策
町民一人ひとりが取り組む環境整備の促進 （放置果樹・野菜くず除去）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家を交えた集落住民参加の集落点検 ・ 集落出前講座 ・ 被害対策広報
正確な鳥獣被害対策の情報の共有・伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落出前講座 ・ 被害対策広報
広域的な対策体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣市町での対策情報共有の仕組み構築

3.2 高浜町における鳥獣被害への対策計画

(1) 獣種ごとの対策計画

1) イノシシへの対策

[鳥獣と被害の特徴]

イノシシは、雑食性の哺乳類で、森林と草原を行き交う生態を持ちます。農地では、イネやイモなどを食べて農作物被害を引き起こすだけでなく、畦畔を大きく掘り起こして農地そのものを破壊することもしばしばです。



夜、集落近くに現れたイノシシ

[被害発生の要因]

イノシシは、高浜町の山際集落を中心に広く出没しており、時に市街地にも現れていました。また、民家の庭先を掘り起こすなどの被害も発生していました。イノシシが慢性的に人の暮らし近くにまで出没する事態は、放置された野菜くず等が誘引物となっていること、そして電気柵等の防御が十分機能していないことにより発生していると考えられます。

- 集落に野菜くず等の餌があり、電気柵等の防御柵等の対策が十分機能してない。
- 捕獲については、「加害個体」の捕獲に至っておらず、被害増大につながっている。

これまでの対策の評価

利点	問題点
<ul style="list-style-type: none">・ 猟友会が構成する実施隊を中心に捕獲に努めてきた。・ 圃場の周囲にネット柵、電気柵等を設置し、防御に努めてきた。	<ul style="list-style-type: none">・ 捕獲数が伸び悩んでおり、捕獲の担い手も十分ではない。・ 田畑に野菜くずが捨てられることが多い。・ 集落を囲う防御柵の設置に至っておらず、管理体制も整っていない。・ 近隣市町と連携した取組に至っていない。



[今後の被害対策]

イノシシは、加害個体を意識した捕獲と正確な防御対策を推進します。

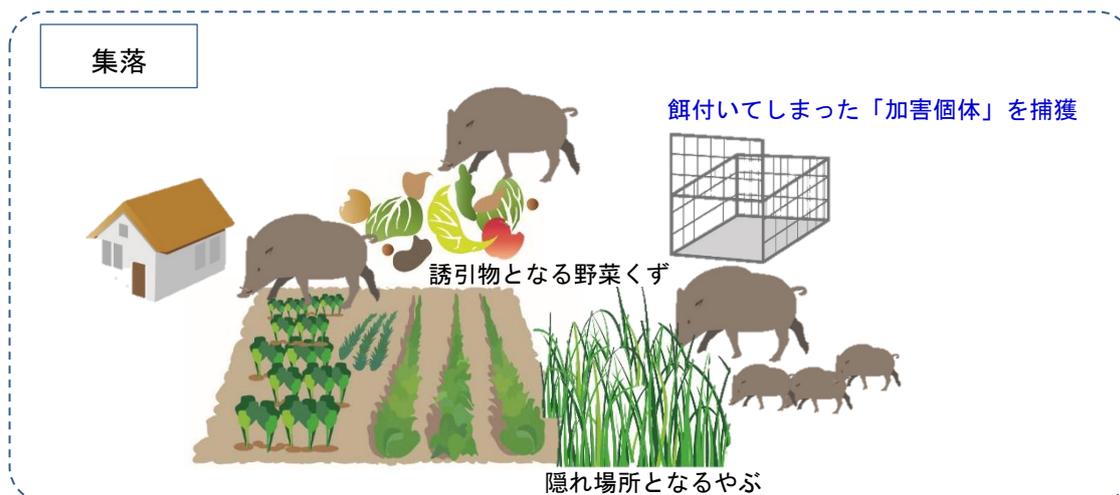
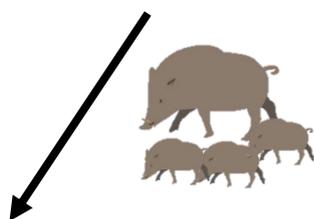
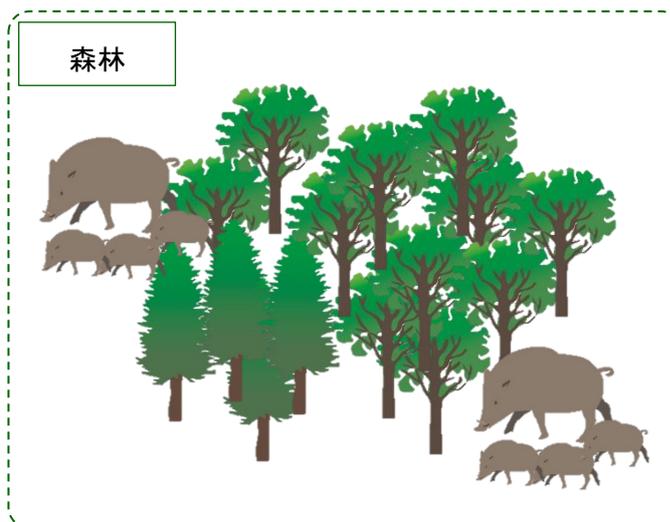
- ◇ 捕獲に際しては「加害個体」の除去を目的に取り組みます。
- ◇ 捕獲に際しては、猟友会と農家との連携を深めて効率的な捕獲を推進します。
- ◇ ネット柵、電気柵、金網柵など、地形や管理体制等に応じた防御方法を検討し、集落ぐるみで取り組める体制を整えます。
- ◇ 田畑への野菜くず放置をしないよう住民によびかけ、集落をイノシシの餌場にしないよう周知徹底を図ります。
- ◇ 近隣の県内外の市町と連携し、情報共有と協働した取組を推進します。

[加害個体の捕獲とは？]

集落における農作物被害は、集落にある農作物や野菜くずをイノシシが餌だと認識して、餌づいてしまうことにより、発生します。

本来、イノシシは森林に生息しており、警戒心が強く、人里に出ることを嫌います。

したがって、農作物被害を防ぐためには、森林内で本来の生活をしている個体を捕獲するのではなく、農作物等に餌付いてしまった「加害個体」を捕獲することが重要です。



2) シカへの対策

[鳥獣と被害の特徴]

シカは、草食性の哺乳類で、森林と草原を行き交う生態を持ち、林業、農業への直接的な影響を及ぼします。また、森林の林床の植物のほとんどを採食し、土砂崩壊を及ぼすこともあります。



集落近くに現れたシカ

[被害発生の要因]

高浜町の山林においては、2.4～14.5 個体/km² と、シカの適正密度（3～5 頭/ km²）に比べると生息密度はかなり高い状況であると推測されました。シカの増加は、全国的な傾向でもありますが、集落が餌場として利用されたり、防御対策が十分でないことも被害発生の要因として考えられます。また、近隣市町に比べて捕獲数が少ないことも被害拡大の要因として推測されます。

- 山林での生息密度が高く、捕獲の効果が表れていない。
- 集落に野菜くず等の餌があり、防御柵等の対策が十分機能してない。

これまでの対策の評価

利点	問題点
<ul style="list-style-type: none">・ 猟友会が構成する実施隊を中心に捕獲に努めてきた。・ 圃場の周囲にネット柵、電気柵等を設置し、防御に努めてきた。	<ul style="list-style-type: none">・ 捕獲数が伸び悩んでおり、捕獲の担い手も十分ではない。・ 田畑に野菜くずが捨てられることが多い。・ 集落を囲う防御柵の設置に至っておらず、管理体制も整っていない。・ 近隣市町と連携した取組に至っていない。



[今後の被害対策]

シカは、捕獲と防御の両軸の取組と他市町と連携した取組を推進します。

- ◇ シカの生息数を 3～5 頭/km² に近づけるよう、積極的な捕獲に取り組みます。
- ◇ 捕獲に際しては、猟友会と農家との連携を深めて効率的な捕獲を推進します。
- ◇ ネット柵、電気柵、金網柵など、地形や管理体制等に応じた防御方法を検討し、集落ぐるみで取り組める体制を整えます。
- ◇ 田畑への野菜くず放置をしないよう住民によびかけ、集落をシカの餌場にしないよう周知徹底を図ります。
- ◇ 近隣の県内外の市町と連携し、情報共有と協働した取組を推進します。

3) サルへの対策

[鳥獣と被害の特徴]

サルは、雑食性の哺乳類で、果実や木の芽、昆虫などを食べ、様々な農作物被害を及ぼします。また、被害は1年中発生し、群れで出没した際には一度に大きな被害を及ぼすこともあります。



集落に出てきたサル

[被害発生の要因]

サルによる被害が発生する要因として、集落がサルの餌場として利用されていることが推測されました。また、個体数の増大か、メス捕獲による群れの分裂が発生し、被害を大きくしていることも考えられました。

- 集落に、容易に確保できる餌（果樹、野菜くず等）が豊富にある。
- 防御・追い払い・捕獲等の対策が有機的に効果を発揮できていない。

これまでの対策の評価

利点	問題点
<ul style="list-style-type: none">・工夫のこらされた防御対策が実施されてきた。・内浦～青郷地区を中心に、追い払いが実施されてきた。・有害捕獲も進んできている。	<ul style="list-style-type: none">・サル防御用の電気柵が、効果を発揮していないケースが多い（誤設置と管理不足）。・山際に放置果樹が多い。・田畑に野菜くずが捨てられることが多い。・群れの肥大化と計画性の低い捕獲により群れが分裂している。



[今後の被害対策]

サルによる被害の要因をもとに、原因の除去と積極的な対策に取り組みます。

- ◇ 人里をサルの餌場としないよう、放置果樹、廃棄農産物（野菜くず等）といった誘引物を除去します。
- ◇ 集落、農地まわりの藪の刈り払いなどの環境整備を進めます。
- ◇ 防御柵を正しく設置し、機能が発揮されるよう維持管理します。
- ◇ サルに「人里は怖い」ことを教え込むよう、効果的な追い上げを推進します。
- ◇ 捕獲の際には、福井県の定めた管理計画に則り、目的と目標を明確に定めた効果的な捕獲を推進します。

[藪の刈り払いの取組事例]

藪の刈り払いは、人手が多くかかり、かつ頻繁に実施しないとすぐに再び藪になってしまいます。そこで近年、ウシやヤギなど草を大量に食べる家畜を放牧して藪の刈り払いに代える取組事例があります。

なお、ウシ等を山際などに放牧すると、当初はサル等は警戒して近づきづらくなりますし、なによりも地域住民がウシを見に行ったりすることで野生鳥獣が集落に近づきにくい条件が生まれます。



藪になった河原に放牧する事例（福井県鯖江市）

4) ハクビシン・アライグマ等中獣類への対策

[鳥獣と被害の特徴]

ハクビシン、アライグマは、いずれも雑食性の哺乳類で、家屋に侵入して営巣するなどにより被害が発生します。また、農地では、果物や野菜などの農作物被害を及ぼします。家屋に侵入した際には、屋根裏に糞尿を溜めるなど、生活環境被害や建物被害に及ぶことがあります。

[被害発生の要因]

平成 27 年度に実施した調査によると、高浜町内のほとんどすべての神社仏閣において、ハクビシンまたはアライグマの侵入の痕跡（柱などへのつめ跡）が認められました。つまり、町内全域にわたって、ハクビシンかアライグマが分布しているといえます。これらの増殖要因としては、カキをはじめとする放置果樹が至るところに分布しているほか、神社仏閣や空き家などに営巣できる隙間がたくさんあることが考えられます。

- 集落に放置果樹や家屋に容易に侵入できる隙間がある。
- 十分な捕獲駆除に至っていない。

これまでの対策の評価

利点	問題点
<ul style="list-style-type: none">・ 猟友会が構成する実施隊を中心に捕獲に努めてきた。・ 圃場の周囲にネット柵、電気柵等を設置し、防御に努めてきた。	<ul style="list-style-type: none">・ 捕獲数が伸び悩んでおり、捕獲の担い手も十分ではない。・ 田畑に野菜くずが捨てられることが多い。・ 集落を囲う防御柵の設置に至っておらず、管理体制も整っていない。・ 近隣市町との連携した取組には至っていない。



[今後の被害対策]

ハクビシン・アライグマ対策は、餌場・住处を与えず、積極的な捕獲を推進します。

- ◇ 効率的な捕獲方法により、積極的に捕獲を推進します。
- ◇ 一般町民による捕獲体制を整え、町民・行政が一体となって捕獲に取り組みます。
- ◇ 餌場を与えないよう、カキ、イチジクなどの放置果樹をなくします。
- ◇ 神社仏閣においては、侵入可能な場所を防ぐなどの対策を推進します。

(2) 対策手法ごとの鳥獣被害対策の計画

1) 防御の計画

高浜町においては、町内の山際集落全域においてイノシシ、シカの被害が及んでおり、特に、高浜町内の東～南東側においてその傾向が著しくなっています。また、山際にとどまらず、平地部においても国道をまたいでの出没も確認されており、山際での防御対策を要します。これまで、イノシシ、シカの対策としては、圃場を中心に囲う電気柵やネット柵の設置が行われてきましたが、部分的な対策にとどまっています。

今後の防除のためには、ネット柵、電気柵、金網柵など、地形や管理体制等に応じた防御方法を検討し、集落ぐるみで取り組める体制を整えます。

表 高浜町における鳥獣被害防御計画

防御の方法	現状	課題	計画内容
電気柵	イノシシ、シカ、サルを対象にした電気柵が設置されている。	圃場囲いが主であり、集落全体を守る動線に至っていないケースが概ねである。正確な使用方法にも課題が残る。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポットで守る農地や、地形の変化が著しい場所では、電気柵の設置を推進する。 ・なるべく集落全体で取り組めるよう設置を推進する。 ・安全かつ効果が発揮できるよう、正しい設置方法を推進する。
ネット柵	和田地区を中心にネット柵が設置されている。	広範囲に設置されていることも多いが、集落全体での取り組みに至っていないケースが多い。効果的な管理に至っていないケースも多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ、シカによる集落への侵入に対して、一定の範囲での設置が可能な場所において、ネット柵の設置を推進する。 ・設置にあたっては、集落の関係者内での合意があり、管理体制が整っているか取り組む予定がある集落を対象に、一定の住民負担のもとに行政が支援する。
金網柵	町内では金網柵の設置は少ない。	—	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ、シカによる集落への侵入の程度が著しく、電気柵や捕獲による対策では十分な効果が発揮できない集落では、集落囲いを主とした金網柵の設置を推進する。 ・設置にあたっては、集落全体での合意形成ができていないことと、設置後の管理体制が整っているか取り組む予定のある集落を対象に、一定の住民負担のもとに行政が支援する。

2) 生息地管理の計画

高浜町におけるイノシシ、シカ、サルによる慢性的な被害発生の要因の一つは、集落が動物たちの餌場となっていることにあります。現地調査においても、カキやイチジクなどの放置果樹や、集落内での野菜くずや廃棄された果物を多数確認しました。また、稲刈り後の二番穂も各所で確認しています。また、耕作放棄地に生い茂る雑草や山際の低木の繁茂は、集落近くまでイノシシ、シカ、サルの侵入を許すことにもつながっています。

防御、捕獲を進めたとしても、こうした動物が集落を餌場にしている限りは、被害の低減にはつながりません。そこで、今後の被害対策の一つとして、放置果樹の縮小・撤去や野菜くずを田畑に撒かないなどの対策や、山際や耕作放棄地をできるだけ草刈り管理するなどの対策を講じます。

表 高浜町における鳥獣被害生息地管理の計画

管理の方法	現状	課題	計画内容
放置果樹	町内の至る場所に、カキ、イチジク、クリ、ミカンなどの放置果樹がみられる。また、完全に収穫されない果物も多数放置されている。	放置果樹の縮小、撤去は、所有者の確認がとりにくいこともあり、対策が進みにくい状況にある。	<ul style="list-style-type: none"> 集落内で声を掛け合い、カキ、イチジク、クリ、ミカンなどの放置果樹は、撤去するか、樹形を小さくするなど対策する。 果物栽培をしている農地では、残さず完全に収穫する。
野菜くず、果実の廃棄	町内の各所に、田畑での野菜くずの放置や、食さない果実の廃棄などがみられる。	野菜くずや果実の廃棄が鳥獣を誘引しているという認識が町民に広がっていない。	<ul style="list-style-type: none"> 集落内で声を掛け合い、野菜くず、果実の廃棄はしない。 野菜くず、果実の廃棄が鳥獣被害を引き起こすことになることを町民に徹底周知する。
耕作放棄地・山際雑草地	町内では耕作放棄が山間地を中心に広がっており、山際においても草刈り管理に及んでいない。	山間地では高齢化がますます進行しており、耕作放棄地は今後も拡大することが予想される。また、草刈りでは人手の確保が困難である。	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地を減ずる対策を施す。 防御柵を設置する際には、耕作放棄地の位置を考慮しながら設置する。

3) 捕獲の計画

高浜町においては、イノシシ、シカ、サルのいずれにおいても多大な被害を及ぼしています。直接的な農業被害のほか、被害を受けることによる農家の心理的なダメージは大きく、今後の農業の継続にも支障をきたしている状況です。一方、イノシシ、シカ、サルについては十分な捕獲頭数には至っていない状況です。

そこで、高浜町においては、今後、捕獲従事者、農家、役場が連携して効果的な有害捕獲に取り組みます。その際、単に捕獲するだけではなく、捕獲の目標頭数を見定め、一方で、捕獲による効果検証を行いながら、効率的な捕獲を目指します。

表 高浜町における有害捕獲の計画

管理の方法	現状	課題	計画内容
イノシシ	200～300 頭程度/年の捕獲があるが、近隣市町と比較すると捕獲個体数は少ない。	捕獲頭数自体が少ない。 捕獲が進みつつあるが加害個体に狙いを定めた効果的な捕獲に至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捕獲檻、くくりわなを効果的に用いた捕獲を推進する。 ・ 加害個体の捕獲に取り組む。 ・ 捕獲の担い手を増やす。
シカ	200 頭程度/年(平成 26 年度)の捕獲があるが、近隣市町と比較すると捕獲頭数は著しく少ない。	捕獲頭数自体が少ない。 捕獲が進みつつあるもののメスの優先的除去など生息密度管理を意識した捕獲に至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ わなを用いた効率的な捕獲などにより捕獲頭数自体を増やす。 ・ 生息密度の調査と連動した捕獲を推進する。 ・ 捕獲の担い手を増やす(イノシシと同様)。
サル	近年、捕獲頭数が伸びており 100 頭(平成 26 年度)を超えており、近隣市町と比較すると多い状況となっている。	個体数は依然多い状況が続いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捕獲檻による捕獲を推進する。被害の著しい地区では、大型捕獲檻の導入も検討する。 ・ 一定の捕獲圧を維持することで、群れの個体密度を低く維持することにより被害防止を図る。 ・ 近隣市町と情報共有しながら捕獲を推進する。

4 高浜町鳥獣被害対策の実施計画

4.1 高浜町内地区ごとの被害対策実施計画

高浜町における鳥獣被害は、深刻さを増すばかりの状況にあります。そこで、前項で検討した鳥獣被害対策の計画をもとに、鳥獣被害対策を具体的な実行につなげるための計画を立案します。

具体的な被害対策の実施計画立案に際しては、高浜町内の4地区に分けて計画を立案します。実施計画を検討する際、下の3つの視点と、役割分担をもとに具体的な取組内容を設定しました。

[鳥獣被害対策3つの視点]

① 被害防御	農地や居住地をイノシシ・シカ・サル等の鳥獣被害から守るため、電気柵・ワイヤーメッシュ柵・ネット柵・金網柵などの正確な設置と管理により被害から防御する。
② 生息地管理	農地や居住地をイノシシ・シカ・サル等の野生鳥獣のすみかとしないう、放置果樹・野菜くずの撤去や水田二番穂の撤去を進める。
③ 捕獲対策	農地や居住地に被害を及ぼす集落に居つく野生鳥獣を対象に、調査と連動した効果のある捕獲を進める。

[役割分担の考え方]

① 農家	自らの農地を守るため、防御、生息地管理を中心に対策を進める。また、捕獲にも補助的に取り組む。
② 集落	非農家の方を中心に、鳥獣被害対策への理解促進に努める。鳥獣被害対策は生活被害にもかかわることであり、また、家庭菜園への防御柵設置や放置果樹撤去により野生鳥獣を呼び寄せない対策を進める。
③ 捕獲従事者	イノシシ・シカ・サルなどの有害捕獲を推進するとともに、適切な生息密度を維持するための密度管理捕獲を推進する。そのため、高度な捕獲技術の習得と実施に取り組む。
④ 事業者	農業関係、林業関係の事業者を中心に、事業の中で必要な対策を進める。対策の実施とともに、対策の効果検証と普及啓発に努める。
⑤ 役場	鳥獣被害に関する必要な調査・計画の実施とともに、農家・集落・捕獲従事者等への技術的・資金的な支援を実施する。鳥獣被害対策に関わる各主体をコーディネートする。

表 高浜町における鳥獣被害対策の実施計画（1/4）

区分	防御の方法	現状	問題・課題	対策の方針	取組内容	役割分担等
和田地区	地区全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 27 号線より北側は集落が密集し、南側は山間地が広がる。 ・ イノシシ、シカによる被害が多発している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 27 号線を境に南北での被害状況が異なる。 	<p>【和田地区鳥獣被害対策方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的なだらかな地形ではあるものの、近年では住宅密集地までイノシシ・シカ・サルの侵入がみられる。 ・ 電気柵・ネット柵等による取組が進んできているものの、正確な管理や生息地管理には課題が残る状況であり、注意喚起を含めた対策を進める。 ・ 鳥獣被害対策の実施点検を、農家・役場の双方で行い、課題を共有しながら取り組む。 		
	被害防御	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田にはイノシシ・シカを対象とした電気柵、ネット柵等の防御柵が設置されている。 ・ 集落囲いに取り組む集落が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気柵、ネット柵の適正な設置、使用方法になっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防御柵の確実な設置とメンテナンスによりイノシシ・サルの侵入を防ぐ。特に、設置者による点検に重点をおく。 ・ 集落、または農地全体を囲う電気柵・ネット柵の設置をさらに拡大し、隣り合う集落間で対策の格差が生じないように調整しながら取り組む。 	<p>① 既設の電気柵・ワイヤーメッシュ柵の正しい設置・管理の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落単位での正しい使い方講習会の実施。 <p>② 電気柵・ネット柵による集落囲いを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落での合意を得ながら非農家を含めて設置を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家・講習会受講、正しい設置・管理・点検の実施 ・ JA・電気柵の設置指導・点検 ・ 役場・講習会の企画・運営、設置点検・指導 ・ 集落・集落囲い実施のための合意形成（自己負担、設置作業・管理作業参加の合意） ・ 役場・合意形成のための説明会開催、補助メニューの検討、隣接する集落間の調整
	生息地管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋起こしの実施が進んでおらず、二番穂が多く結実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田には二番穂、農地と山際には放置果樹が多い一方で、農家は鳥獣被害との関連性に気づいていない。 ・ 特に、水田二番穂にはサルが群れで餌づいている状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田二番穂、野菜くずの放置、放置果樹を撤去する。 ・ 水田二番穂については、秋起こしの呼びかけを強化する（誘引物であることを農家に周知する）。 	<p>① 水田二番穂の撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …営農指導により、稲刈り後早期の秋起こしを推進。 <p>② 放置果樹・野菜くずの撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …放置果樹の撤去（剪定・伐採を含む）、野菜くずを放置しないよう呼びかけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家・早期の秋起こしの実施 ・ JA・秋起こし実施の営農指導 ・ 農家・果樹の完全収穫、放置果樹は伐採 ・ 集落・庭先等に保有する果樹の完全収穫、放置果樹は伐採・剪定、野菜くずを放置しない
	捕獲対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ イノシシとサルの檻捕獲が取り組まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イノシシの捕獲頭数は近隣市町に比べて少ない。 ・ サルの捕獲は加害個体の駆除に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣の生態特性、侵入経路等を考慮した捕獲に取り組む。 ・ 個体数が多いことも想定されるため、事前の調査（群れサイズ、群れの分布）を実施したうえで、大量捕獲の導入を検討する。 	<p>① イノシシ・シカの捕獲</p> <ul style="list-style-type: none"> …加害個体を意識した捕獲の推進。捕獲個体数の増加に努める。 <p>② サルの捕獲（有害個体捕獲）</p> <ul style="list-style-type: none"> …民家に出るハグレザルは捕獲する。 <p>③ サルの捕獲（個体数調整捕獲）</p> <ul style="list-style-type: none"> …被害レベルの高い群れを対象に、テレメトリー調査を実施しながら群れサイズを小さく管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家・捕獲隊、捕獲補助員に参加し、檻の管理に取り組む ・ 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 ・ 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施 ・ 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 ・ 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施 ・ 農家・捕獲隊、捕獲補助員に参加し、檻の管理に取り組む ・ 実施隊…調査データに基づく計画的な捕獲実施 ・ 役場…大型捕獲檻や ICT 導入による群れ捕獲のハード支援、テレメトリー調査の実施・群れサイズ評価

表 高浜町における鳥獣被害対策の実施計画（2/4）

区分	防御の方法	現状	問題・課題	対策の方針	取組内容	役割分担等
高浜地区	地区全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 27 号線より北側は集落が密集し、南側は山間地が広がる。 ・ イノシシ、シカによる被害が多発している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 27 号線を境に南北での被害状況が異なる。 	<p>【高浜地区鳥獣被害対策方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的なだらかな地形ではあるものの、近年では住宅密集地までイノシシ・シカ・サルの侵入がみられる。 ・ 電気柵・ネット柵等による取組が進んできているものの、正確な管理や生息地管理には課題が残る状況であり、注意喚起を含めた対策を進める。 ・ 鳥獣被害対策の実施点検を、農家・役場の双方で行い、課題を共有しながら取り組む。 		
	被害防御	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田にはイノシシ・シカを対象とした電気柵、ネット柵等の防御柵が設置されている。 ・ 集落囲いに取り組む集落が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気柵、ネット柵の適正な設置、使用方法になっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防御柵の確実な設置とメンテナンスによりイノシシ・サルの侵入を防ぐ。特に、設置者による点検に重点をおく。 ・ 集落、または農地全体を囲う電気柵・ネット柵の設置をさらに拡大し、隣り合う集落間で対策の格差が生じないように調整しながら取り組む。 	<p>① 既設の電気柵・ワイヤーメッシュ柵の正しい設置・管理の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落単位での正しい使い方講習会の実施。 <p>② 電気柵・ネット柵による集落囲いを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落での合意を得ながら非農家を含めて設置を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家…講習会受講、正しい設置・管理・点検の実施 ・ J A…電気柵の設置指導・点検 ・ 役場…講習会の企画・運営、設置点検・指導 ・ 集落…集落囲い実施のための合意形成（自己負担、設置作業・管理作業参加の合意） ・ 役場…合意形成のための説明会開催、補助メニューの検討、隣接する集落間の調整
	生息地管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの水田で秋起こしがされているものの、徹底はされておらず二番穂が多く結実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田には二番穂、農地と山際には放置果樹が多い一方で、農家は鳥獣被害との関連性に気づいていない。 ・ 耕作放棄水田が増えており、隠れ場所が農地の間にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田二番穂、野菜くずの放置、放置果樹を撤去する。 ・ 水田二番穂については、秋起こしの呼びかけを強化する（誘引物であることを農家に周知する）。 	<p>① 水田二番穂の撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …営農指導により、稲刈り後早期の秋起こしを推進。 <p>② 放置果樹・野菜くずの撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …放置果樹の撤去（剪定・伐採を含む）、野菜くずを放置しないよう呼びかけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家…早期の秋起こしの実施 ・ J A…秋起こし実施の営農指導 ・ 農家…果樹の完全収穫、放置果樹は伐採 ・ 集落…庭先等に保有する果樹の完全収穫、放置果樹は伐採・剪定、野菜くずを放置しない
	捕獲対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ イノシシとサルの檻捕獲が取り組まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イノシシの捕獲頭数は近隣市町に比べて少ない ・ サルの捕獲は加害個体の駆除に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣の生態特性、侵入経路等を考慮した捕獲に取り組む。 	<p>① イノシシ・シカの捕獲</p> <ul style="list-style-type: none"> …加害個体を意識した捕獲の推進。捕獲個体数の増加に努める。 <p>② サルの捕獲（有害個体捕獲）</p> <ul style="list-style-type: none"> …民家に出るハグレザルは捕獲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家…捕獲隊、捕獲補助員に参加し、檻の管理に取り組む ・ 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 ・ 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施 ・ 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 ・ 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施

表 高浜町における鳥獣被害対策の実施計画（3/4）

区分	防御の方法	現状	問題・課題	対策の方針	取組内容	役割分担等
内浦地区	地区全般	<ul style="list-style-type: none"> 海から急峻な山地斜面に農業集落が広がる。 イノシシ、サルによる被害が多発している。 	<ul style="list-style-type: none"> 急峻で複雑な地形の中山間地であり、かつ、過疎化が著しい社会条件もある。 	<p>【内浦地区鳥獣被害対策方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 急峻・複雑な地形に対応できる対策方法と、高齢化を考慮に入れた対策の方法・仕組みを導入する。 生息地管理への取組が薄く、農地の鳥獣被害を呼び込んでいる面があるため、注意喚起からの対策を強化する。 鳥獣被害対策の実施点検を、農家・役場の双方で行い、課題を共有しながら取り組む。 		
	被害防御	<ul style="list-style-type: none"> 水田にはイノシシ・シカを対象とした電気柵、ネット柵等の防御柵が設置されている。 畑をサルから守るため、複合柵の設置も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気柵、ネット柵の適正な設置、使用方法になっていない。 サルに対する複合柵の大半が設置不良及びメンテナンス不良である。 	<ul style="list-style-type: none"> 防御柵の確実な設置とメンテナンスによりイノシシ・サルの侵入を防ぐ。 個別の圃場囲いの対策では管理への人手不足があるため、イノシシ用の防御柵として、集落、または農地全体を囲う電気柵やネット柵の設置を検討する。 	<p>① 既設の電気柵・ワイヤーメッシュ柵の正しい設置・管理の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落単位での正しい使い方講習会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…講習会受講、正しい設置・管理・点検の実施 役場…講習会の企画・運営、設置点検・指導
	生息地管理	<ul style="list-style-type: none"> 特段の取組はみられない。 	<ul style="list-style-type: none"> イノシシ・サルの誘引物として、水田には二番穂、農地と山際には放置果樹が多い。 耕作放棄水田が増えており、隠れ場所が農地の間にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 農地がイノシシ・サルを呼び寄せているため、非農家を含む住民参加での集落点検により獣を呼び寄せている原因を住民皆で確認し、対策を検討する。 水田二番穂、野菜くずの放置、放置果樹を撤去する。 耕作放棄地については、他の利活用を検討するとともに、耕作放棄地の存在を考慮した防御柵の設置対策をとる。 	<p>① 集落点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> …農家・非農家・専門家・役場職員による集落点検を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 集落…集落点検を実施。点検結果より得た問題点を集落全体に周知 役場…集落点検の企画・運営、現地での技術指導
					<p>② 水田二番穂の撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …営農指導により、稲刈り後早期の秋起こしを推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…早期の秋起こしの実施 JA…秋起こし実施の営農指導
					<p>③ 放置果樹・野菜くずの撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …放置果樹の撤去（剪定・伐採を含む）、野菜くずを放置しないよう呼びかけ。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…果樹の完全収穫、放置果樹は伐採 集落…庭先等に保有する果樹の完全収穫、放置果樹は伐採・剪定、野菜くずを放置しない
	捕獲対策	<ul style="list-style-type: none"> イノシシとサルの檻捕獲に取り組まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> イノシシの捕獲頭数は近隣市町に比べて少ない。 サルの捕獲は他の集落に比べて少なく群れサイズを小さくするには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 獣の生態特性、侵入経路等を考慮した捕獲に取り組む。 群れサイズが想定以上に大きいか、複数の群れが交互に侵入していることから、群れの個体数が多いことが想定されるため、事前の調査（群れサイズ、群れの分布）を実施したうえで、大量捕獲の導入を検討する。 捕獲とあわせて群れの分布と群れサイズの監視調査を実施し、より効率的・効果的な駆除方法を検討する。 	<p>① イノシシの捕獲</p> <ul style="list-style-type: none"> …加害個体を意識した捕獲の推進。捕獲個体数の増加に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…捕獲隊、捕獲補助員に参加し、檻の管理に取り組む 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施
					<p>② サルの追い上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落に寄りつかないようにサルを山に追い上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集落…追い上げの講習受講、実施 役場…効果的な追い上げ技術の講習実施、資材支援
					<p>③ サルの捕獲（有害個体捕獲）</p> <ul style="list-style-type: none"> …民家に出るハグレザルは捕獲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施
					<p>④ サルの捕獲（個体数調整捕獲）</p> <ul style="list-style-type: none"> …被害レベルの高い群れを対象に、テレメトリー調査を実施しながら群れサイズを小さく管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…捕獲隊、捕獲補助員に参加し、檻の管理に取り組む 実施隊…調査データに基づく計画的な捕獲実施 役場…大型捕獲檻やICT導入による群れ捕獲のハード支援、テレメトリー調査の実施・群れサイズ評価

表 高浜町における鳥獣被害対策の実施計画（4/4）

区分	防御の方法	現状	問題・課題	対策の方針	取組内容	役割分担等
青郷地区	地区全般	<ul style="list-style-type: none"> 北部は平地が広がり南西側は急峻・複雑な地形の中山間地。 イノシシ、サルによる被害が多発している。 	<ul style="list-style-type: none"> 山側は、急峻で複雑な地形の中山間地であり、過疎化が進みつつある社会条件もある 	<p>【青郷地区鳥獣被害対策方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 急峻な地形に対応できる対策方法を導入する。 特に、農地・民家への影響を及ぼすサルについては、調査と並行した捕獲を強化する。 生息地管理への取組が薄く、農地の鳥獣被害を呼び込んでいる面があるため、注意喚起からの対策を強化する。 		
	被害防御	<ul style="list-style-type: none"> 水田にはイノシシを主な対象として、主に電気柵、一部ワイヤーメッシュ柵が設置されている。 畑をサルから守るため、複合柵の設置も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気柵、ワイヤーメッシュ柵の適正な設置、使用方法になっていない。 サルを対象とした複合柵の大半が設置不良及びメンテナンス不良である。 	<ul style="list-style-type: none"> 防御柵の確実な設置とメンテナンスによりイノシシ・サルの侵入を防ぐ。 個別の圃場囲いの対策では管理への人手不足があるため、イノシシ用の防御柵として、集落、または農地全体を囲う電気柵・ネット柵の設置を検討する。 	<p>① 既設の電気柵・ワイヤーメッシュ柵の正しい設置・管理の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落単位での正しい使い方講習会の実施。 <p>② 電気柵・ネット柵による集落囲いを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落での合意を得ながら非農家を含めて設置を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…講習会受講、正しい設置・管理・点検の実施 JA…電気柵の設置指導・点検 役場…講習会の企画・運営、設置点検・指導 集落…集落囲い実施のための合意形成（自己負担、設置・管理作業参加合意） 役場…合意形成のための説明会開催、補助メニューの検討
	生息地管理	<ul style="list-style-type: none"> 特段の取組はみられない。 	<ul style="list-style-type: none"> イノシシ・サルの誘引物として、水田には二番穂、農地と山際には放置果樹が多い。 耕作放棄水田が増えており、耕作されている農地と農地の間に隠れ場所が形成されており、農地に出現しやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 農地がイノシシ・サルを呼び寄せているため、非農家を含む住民参加での集落点検により獣を呼び寄せている原因を住民皆で確認し、対策を検討する。 住民側に「知らずに」二番穂、野菜くず、果樹を放置していることから住民に知ってもらう勉強会を推進する。 水田二番穂、野菜くずの放置、放置果樹を撤去する。 放棄耕作地について、集落の内部に到達する場所などを絞り込み、集落として草刈りを実施する。 	<p>① 集落点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落での勉強会を実施し、農家・非農家・専門家・役場職員による集落点検を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 集落…鳥獣被害対策勉強会に出席。集落点検を実施。点検結果より得た問題点を集落全体に周知 役場…集落点検の企画・運営、現地での技術指導
					<p>② 水田二番穂の撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …営農指導により、稲刈り後早期の秋起こしを推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…早期の秋起こしの実施 JA…秋起こし実施の営農指導
					<p>③ 放置果樹・野菜くずの撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> …放置果樹の撤去（剪定・伐採を含む）、野菜くずを放置しないよう呼びかけ。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…果樹の完全収穫、放置果樹は伐採 集落…庭先等に保有する果樹の完全収穫、放置果樹は伐採・剪定、野菜くずを放置しない
	捕獲対策	<ul style="list-style-type: none"> イノシシとサルの檻捕獲に取り組まれている。 特に、サルの捕獲には集落での捕獲組織を結成し、追い払い+捕獲に取り組まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> イノシシの捕獲頭数は近隣市町に比べて少ない。 サルの捕獲は他の集落に比べて群を抜いて多いものの、群れサイズを小さくするには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 獣の生態特性、侵入経路等を考慮した捕獲に取り組む。 群れサイズが想定以上に大きい、複数の群れが交互に侵入していることから、群れの個体数が多いことが想定されるため、事前の調査（群れサイズ、群れの分布）を実施したうえで、大量捕獲の導入を検討する。 捕獲とあわせて群れの分布と群れサイズの監視調査を実施し、より効率的・効果的な駆除方法を検討する。 	<p>① イノシシの捕獲</p> <ul style="list-style-type: none"> …加害個体を意識した捕獲の推進。捕獲個体数の増加に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…捕獲隊、捕獲補助員に参加し、檻の管理に取り組む 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施
					<p>② サルの追い上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> …集落に寄りつかないようにサルを山に追い上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集落…追い上げの講習受講、実施 役場…効果的な追い上げ技術の講習実施、資材支援
					<p>③ サルの捕獲（有害個体捕獲）</p> <ul style="list-style-type: none"> …民家に出るハグレザルは捕獲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施隊…加害個体をターゲットに捕獲、捕獲獣の処理 役場…捕獲檻の貸出し、捕獲助成、ICT等効果的な捕獲技術の講習実施
					<p>④ サルの捕獲（個体数調整捕獲）</p> <ul style="list-style-type: none"> …被害レベルの高い群れを対象に、テレメトリー調査を実施しながら群れサイズを小さく管理する。 ※高野集落にてモデル実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家…捕獲隊、捕獲補助員に参加し、檻の管理に取り組む 実施隊…調査データに基づく計画的な捕獲実施 役場…大型捕獲檻やICT導入による群れ捕獲のハード支援、テレメトリー調査の実施・群れサイズ評価

4.2 被害対策実施にあたっての役割分担

高浜町における鳥獣被害対策を効果的に推進するため、各主体での役割分担を明確にします。また、各主体でそれぞれに対策を進める一方で、各主体間が連携し、地域をあげて鳥獣被害対策を推進します。

表 高浜町における鳥獣被害対策の役割分担

主体	役割分担の考え方	被害対策への取組事項		
		被害防御	生息地管理	捕獲
① 農家	<ul style="list-style-type: none"> ● 自らの農地を守るため、防御、生息地管理を中心に対策を進める。 ● 補助的な捕獲に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技能講習の受講 ● 既設の防御柵の正しい設置・管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水田での秋起こしの実施（二番穂をつけない） ● 農産物の完全収穫 ● 野菜くずの農地への廃棄停止 ● 放置果樹の伐採・剪定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 捕獲隊、捕獲補助員に参加する ● 檻の管理（誘引餌の設置、見回り）への取組
② 集落	<ul style="list-style-type: none"> ● 非農家の方を中心に、鳥獣被害対策への理解促進に努める。 ● 鳥獣被害対策は生活被害にもかかわることであり、また、対策未実施の家庭菜園や放置果樹により野生鳥獣を呼び寄せない対策を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集落囲いに取り組む際の合意形成の推進（受益者負担、設置作業・管理作業参加の合意） ● 家庭菜園での防御柵設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥獣被害対策勉強会出席 ● 集落点検への参加と点検結果の集落への周知 ● 野菜くずの農地への廃棄停止 ● 放置果樹の伐採・剪定 ● 家庭菜園での防御柵設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● サルの追い上げの講習受講、実施
③ 捕獲従事者（猟友会）	<ul style="list-style-type: none"> ● イノシシ・シカ・サルなどの有害捕獲を推進するとともに、適切な個体密度を維持するための密度管理捕獲を推進する。 ● 高度な捕獲技術の習得と実施に取り組む。 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ● イノシシ、シカ、サル等の有害鳥獣を対象に、加害個体をターゲットにした捕獲、捕獲獣の処理
④ 事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業関係、林業関係の事業者を中心に、事業の中で必要な対策を進める。 ● 対策の実施とともに、対策の効果検証と普及啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● [J A] 電気柵の設置指導・点検 	<ul style="list-style-type: none"> ● [J A] 水田での秋起こし実施の営農指導（有害鳥獣誘引と関連づけた指導） ● [森林組合] 枝落とし等により発生する枝葉等の食害対策実施（シカやサルは、枝落とし後の新鮮な枝葉を好んで食べることがあるため） 	<ul style="list-style-type: none"> ● [J A] 農家による捕獲への参加呼びかけ ● [森林組合] シカの捕獲への参加
⑤ 役場	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥獣被害に関する必要な調査・計画の実施とともに、農家・集落・捕獲従事者等への技術的・資金的な支援を実施する。 ● 鳥獣被害対策へのニーズに対するコーディネートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技能講習の企画・運営 ● 防御柵の設置点検・指導 ● 集落囲いを実施する際の合意形成のための説明会開催 ● 補助メニューの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集落点検の企画・運営、現地での技術指導 ● 現地での技術指導 ※専門家を招聘して効果的な技術指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥獣被害防止計画の策定、被害状況・鳥獣生息状況調査 ● 被害対策の進行管理 ● 捕獲檻の貸出し、捕獲助成、効果的な捕獲技術の講習実施 ● 捕獲用資材の支援 ● サルを対象に、大型捕獲檻や ICT の導入による群れ捕獲のハード支援・テレメトリー調査の実施・群れサイズ評価

注：この表では、主体－取組事項の一覧をまとめている。

各地区（集落）での実施有無については、前表に基づくこととする（全地区一律の計画ではなく、地区ごとの状況に応じた取組を推進する）。

4.3 被害対策の進行管理

(1) 総合計画の進行管理

この高浜町鳥獣被害対策総合計画では、高浜町における鳥獣被害の状況とその対策を計画としてとりまとめたものです。今後、鳥獣被害対策総合計画に基づき、農家、集落住民、捕獲従事者、事業者と行政が一体となり、それぞれの役割分担を果たしながら鳥獣被害対策の実施を推進していきます。

一方、鳥獣被害の状況は、今後、異なる傾向をみせることも考えられます。そこで、この鳥獣被害対策総合計画は、3～5年を目安に取組の評価を行い、改定を加えるものとします。

(2) 日常的な対策フォロー

高浜町における鳥獣被害対策は、前項までの実施計画を可能な限り早期に実施に移します。また、対策の実施とともに、取組の効果検証を行い、必要に応じてすみやかに改善して計画を見直し、実行に反映します。鳥獣被害は、日々発生するものであり、農業や生活環境に大きな影響を及ぼすことから、このようなP D C Aサイクルは、現地での取組と並行して常に実践します。

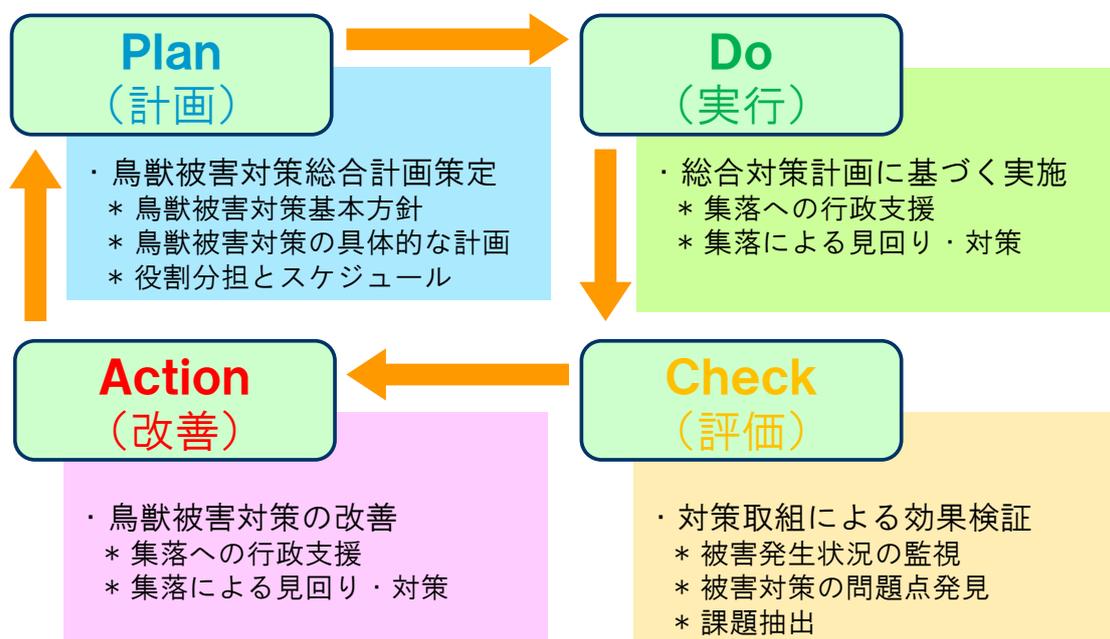


図 高浜町における鳥獣被害対策P D C Aサイクル

(3) 今後の課題

この高浜町鳥獣被害対策総合計画に基づく取組によって、近い将来、鳥獣被害を許容できるレベルまで低減させることが期待されます。

一方、全国的にシカの個体数管理は課題となっており、それは高浜町でも同様です。シカの個体数管理においては、従来の捕獲手法・捕獲体制に立脚した捕獲では、個体数低減の効果が得られていない地域がほとんどです。そのため、近年は、シャープシューティングという個体数管理の新たな手法や体制をうたった概念が導入されたり、より具体的な新規手法・体制が検討されています。

高浜町においても、この高浜町鳥獣被害対策総合計画に基づいた取組を着実に進めつつ、森林内のシカの個体数管理をどのように進めていくか、あわせて検討していくことが求められます。